



東京部会(第41回)	
日時:	2011年9月15日(木) 19:00-21:30
場所:	日本大学経済学部7号館10階7104教室
参加者:	篠原(同志社大)、猪瀬(弘前大)、中川(日大)、新井(小石川中等教育)、杉田(千葉西高)、升野(筑波大学附属中)、高橋(桜修館中等教育)、山崎(北海道豊富高:筑波大)、宮崎(蒲田高)、榊原(東証)、石山(東証)、鈴木(経済教育センター)、加藤(日大)[順不同]
<p>開会前、東京経済政策研究会の紹介と今後の連携の可能性について話し合われた。今後の推移を見守ることになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 篠原先生より今後の事業として教員向けの教科書作成について問題提起がなされ、参加者で議論した。(1)先生方の関心が異なり、中高を分ける、(2)一般向けを目指すのかあるいは教員向けを目指すのか、という点が議論の中心になった。高校は一般向け、中学は教員向けという方向になりつつあったが、最終的に改めて検討することになった。(3)内容について、教科書を膨らませて記述するという点については一致した。(4)その他、親が読みたくなるような本にする、ロングセラーを狙うという意見もあった。 2. 現在、ネットワークメンバーによって連載されている経セミの原稿について、日本評論社から発行日から半年後以降は経済教育ネットワークのウェブに掲載許可がでた。ただし、生原稿のまま(経セミのフォーマットは使わない)。 3. 宮尾先生の「行動経済学の応用例:放射線への懸念について」が紹介された(プリント配布、宮尾先生ご欠席)。 4. 高橋先生より、「中学校・高等学校(中等教育)道徳・公民科と大学(高等教育)経済学の狭間で—便乗値上げを例に考える—」について実践報告。1時間目を道徳の時間とし、2時間目を公民の時間と設定された。道徳の時間では便乗値上げに否定的な生徒が9割、公民の時間では生徒の販売価格を質問されたところ、3分の2の学生が便乗値上げに値する価格で販売すると答えた。その後、ディスカッションで質問のさらなる改善に関する意見がでた。 5. 新井先生と石山氏より、「先生のための夏休み経済教室」の総括がなされた。(1)参加人数はのべ977名、(2)後援で文科省と金融広報委員会がはいった、(3)福岡での地元の協力が大きかったこと、(4)名古屋では人的なネットワークづくりが奏功、(5)地歴にウイングを拡大したことが参加者増加の一因。次年度も開催予定。これまでの実績ゆえ、今後の企画と運営のハードルが上がっていることもあり準備期間を繰り上げ、はやめにプログラムを確定することを目指すことが確認された。 6. 新井先生より、入試問題プロジェクトの継続が報告され、高校と大学教員の複眼的な評価をめざすなど、今後の改善策が提案された。 7. 12月総会の内容についての議論:法と経済の観点から講演やシンポを企画してはどうか、という意見があった。また、実践報告あるいはディスカッション形式で高橋先生の便乗値上げの実践をとりあげてはどうか、という意見もあった。(文責:加藤一誠) 	
<p>次回開催予定:10月18日(火)19:00~21:00。会場:7号館13階会議室3</p> <p>議題:1. 作成する教科書の内容の議論。 2. 12月総会の内容決定。 3. その他</p>	